

千葉大学病院 ニュース

2007年1月

第9号



千葉大学医学部附属病院
Chiba University Hospital

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-222-7171 (代表)

URL <http://www.ho.chiba-u.ac.jp>

本院の基本理念

人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める。

本院の基本方針

患者中心の最適な医療を提供します。

安全で良質な医療を実践します。

最先端の診断・治療法の開発を目指します。

卒前・卒後および生涯教育を通してプライマリ・ケアから先端医療までを実践できる医療人を育成します。

本院における患者の権利と責務

権利

公平で良質、かつ安全な医療を受けることができます。

プライバシーが保護されます。

診断・治療法等に関して、十分な情報提供と説明を受けたいうえで、自らの意思で決定できます。

臨床研究に関し十分な説明を受けたいうえで、研究に参加するか否かを自ら決定し、いつでも参加を中止することができます。

責務

良質な医療を実現するため、自身の健康状態に関する正確な情報を提供してください。

良質な医療を受けるため、定められた諸規則を守ってください。

医療者の育成にご理解のうえ、積極的に医療に参加し協力してください。

患者さんへ

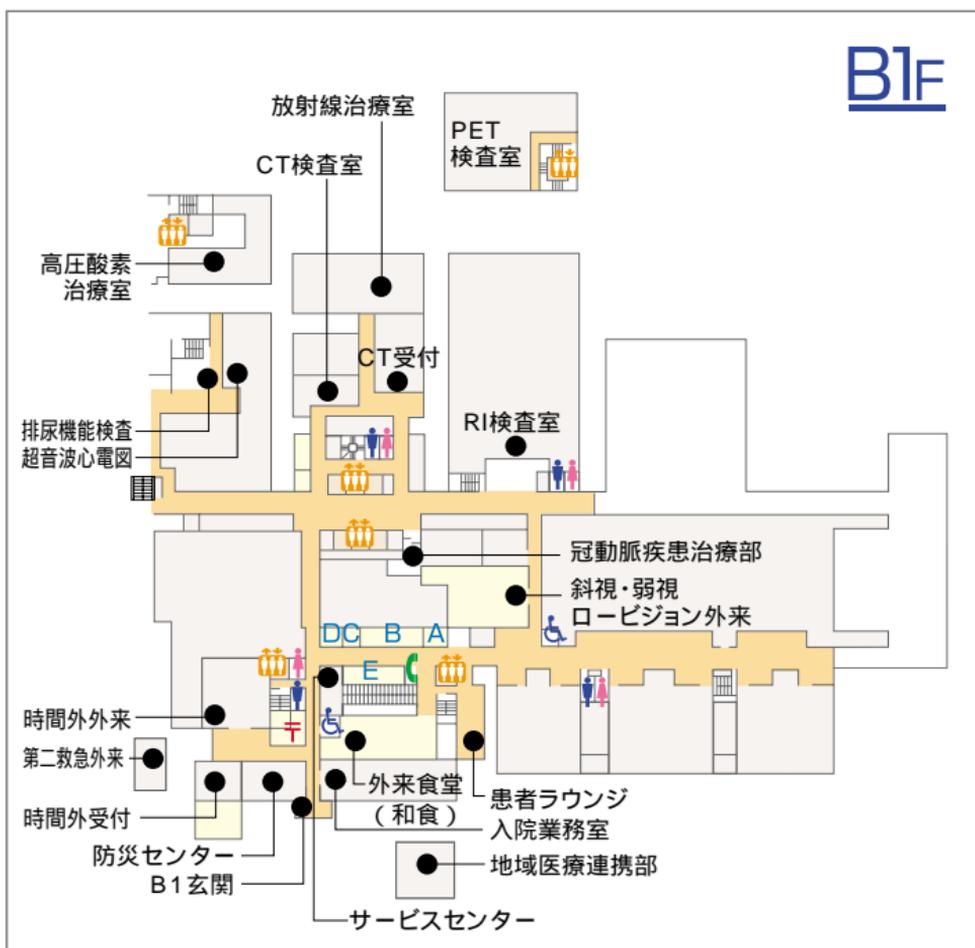
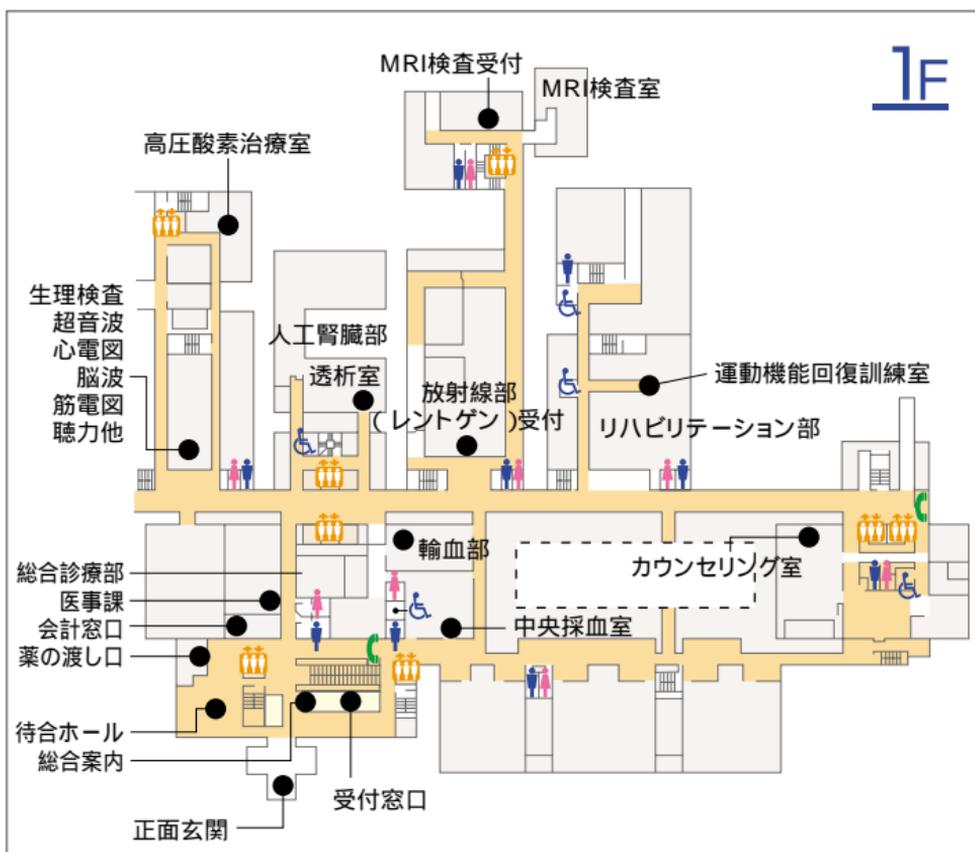
本院は、患者中心の質の高い医療を目指すとともに、次世代を担う優れた医療人を育成する医療機関であります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

診 療 科 一 覧

診療科等名		場所	初診受付日
①	消化器内科	1F	月～金
②	血液内科	1F	月～金
③	腎臓内科	1F	月～金
④	アレルギー・膠原病内科	1F	月、火、木
⑤	糖尿病・代謝・内分泌内科	1F	月～金
⑥	循環器内科	1F	月～金
⑦	呼吸器内科	1F	月～金
⑧	和漢診療科	B1F	月～金(完全予約制)
⑨	心臓血管外科	2F	月、水、金
⑩	食道・胃腸外科	2F	月、火、木
⑪	肝胆膵外科	2F	月、水、金
⑫	乳腺・甲状腺外科	2F	月～金
⑬	呼吸器外科	1F	月、水、金
⑭	麻酔・疼痛・緩和医療科	B1F	月、金(完全予約制)
⑮	泌尿器科	2F	月、火、木
⑯	整形外科	2F	火、木、金
⑰	眼科	1F	月～金
⑱	皮膚科	B1F	月、火、水、金
⑲	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2F	月、水、金
⑳	歯科・顎・口腔外科	B1F	月、火、木、金
㉑	形成・美容外科	1F	火、木
㉒	精神神経科	B1F	月～金(完全予約制)
㉓	脳神経外科	2F	月、水、金
㉔	神経内科	1F	月～金
㉕	婦人科	B1F	月、水、金
㉖	周産期母性科	B1F	月、水、金
㉗	小児科	1F	月～金
㉘	小児外科	1F	月、火、木
㉙	放射線科	B1F	月～金
㉚	総合診療部	1F	月～金
㉛	冠動脈疾患治療部	1F	月～金
㉜	光学医療診療部	2F	火、水、木
㉝	感染症管理治療部	1F	月～金
㉞	こどものこころ診療部	B1F	火(完全予約制)

- ・初診受付時間は、原則として午前8：30～10：30です。詳細は、総合案内（内線6120）もしくは各診療科の外来窓口にお尋ねください。
- ・紹介状をお持ちでない初診の患者さんは、特定療養費（3,150円）を頂きます。



記号のご案内



男子トイレ



車椅子対応トイレ



エレベーター



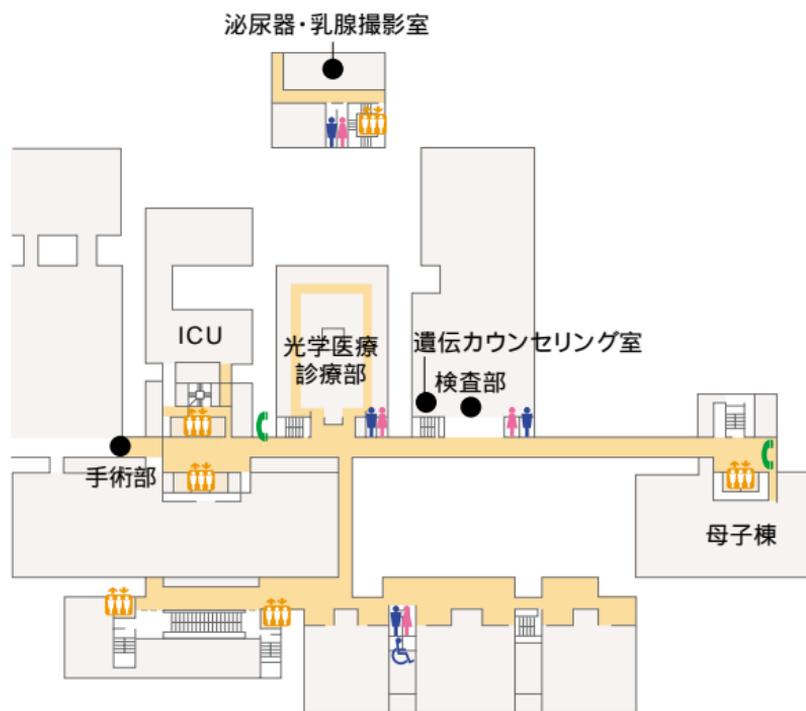
女子トイレ



公衆電話



エスカレーター



- | | | | |
|---|--|---|---|
|  階 段 |  クリーニング |  売 店 |  患者様通路 |
|  銀 行 |  花 屋 |  コインロッカー |  郵便局 |

トピックス

より良い治療のための臨床試験

—臨床試験部—

安全で有効な臨床試験のために

大学病院には、より良い治療法を確立し、患者・国民の皆さんの期待に応える使命があります。そのためには科学性と倫理性に基づいた臨床試験が必要です。

臨床試験を支える審査委員会と臨床試験部

すべての臨床試験は治験審査委員会(他の病院では倫理委員会と呼ぶこともあります)で承認を受ける必要があります。医学や法律などの専門家による審査を行い、安全性、科学性、倫理性、参加者から同意をいただくプロセスにいたるまで厳しく検討します。その上で、試験が承認された通りに実施され、はじめて安全性と利益が保証されます。そのために臨床試験を現場で強力にサポートするのが臨床試験部です。

臨床試験についての質問、意見を歓迎します

ピンク色のユニフォームの肩口に「CRC」というワッペンをつけた職員を見かけたことはありませんか? 「CRC」は、看護師、薬剤師、臨床検査技師などが職種を超えてクリニカルリサーチ・コーディネーター(臨床研究・治験を調整する人)として、試験の「説明と同意」から「実施」にいたるまで一貫して患者さんのお手伝いをします。担当医からの説明に分からないところがある、なんとなく不安が残る、ということもあるかと思います。こうした時に患者さんの立場に立って担当医との橋渡しをするのもCRCの重要な役割です。「臨床試験への参加を依頼されたがどうしよう」、「積極的に新しい治療法を試してみたい」、という方は臨床試験部スタッフまでお気軽にお尋ね下さい。



食事により治癒力を高める

—臨床栄養部—

臨床栄養部とは

臨床栄養部では、安全で美味しく、治療に適した食事提供のための給食管理と、過栄養、低栄養状態を良好にするための栄養管理を行っております。

給食管理（フードサービス部門）

医療の一環として入院中の食事を提供しています。安全で美味しく、治療に適した、食べやすい形に調整した食事を提供するため、衛生面にも万全の注意を払い、調理技術やメニューの向上にも務めています。

栄養管理（クリニカルサービス部門）

栄養サポート：病気やけがの治療や病状のため、食事が思うように摂れなくて困った事はありませんか？身体は栄養が足りなくなると、病気の回復が遅くなり、合併症を起こしやすくなります。こんな時、最適な栄養を摂るための工夫を色々な職種が専門的な意見を出し、検討する栄養サポートチーム（NST）が昨年4月に発足しました。この一員として、診療科と密に連携をとり活動しています。

栄養相談：さまざまな科と連携し、減量治療中の食事・栄養管理のサポート、手術をされる方の術前・術後から退院後ご自宅での食事・栄養管理のサポート、アレルギーのある方の発育を考慮した食事管理、糖尿病教室や母親学級など、多岐にわたって各担当の管理栄養士がご相談に応じています。詳しくは担当医師・看護師にお尋ねください。



栄養相談 - お気軽にご相談ください。

診療科等のご紹介

乳 腺 ・ 甲状腺外科

エビデンスに基いた質の高い医療

乳腺・甲状腺外科では、乳腺疾患、甲状腺、上皮小体疾患の診断・治療および重症肥満の外科治療を行っています。

豊富な手術経験と手術の低侵襲化

2005年の当科での乳癌手術件数は209件で、読売新聞の調査では、全国の国立大学法人附属病院中最も手術件数が多い施設でした。またこのような豊富な手術経験に基き、乳癌手術の低侵襲化にも取り組んでいます。2005年の温存手術件数は143件で、温存率68.4%と過半数以上の患者さんが乳房温存療法を受けています。温存療法の適応外の方でも術前化学療法を行い温存手術をされる方もいます。また、腋窩のリンパ節を郭清しないセンチネルリンパ節生検の件数も増えています。最近では皮膚切開創の目立たない内視鏡を用いた鏡視下手術やラジオ波熱凝固療法にも取り組んでいます。

早期乳癌の診断・治療

千葉県では全国に先がけて、1996年度よりマンモグラフィ検診を導入しています。千葉大学病院も、ちば県民保健予防財団に協力し、マンモグラフィ検診の導入・普及に努力してきました。マンモグラフィ検診の早い時期からの導入により、しこりをつくる以前の小さな石灰化病変のみを認める早期の乳癌の診断および治療に関しては、全国でも屈指の症例数を誇っています。

甲状腺、上皮小体疾患の診断・治療および重症肥満の外科治療

甲状腺癌の手術では、手術創の目立たない小切開手術を行っています。上皮小体の手術ではメチレンブルーを用いた術中局在診断を行い、確実な手術、短時間手術を行っています。また重症肥満の外科治療は、我々の施設が日本で初めて行っています。

周産期母性科 妊婦さんと赤ちゃんのために

お母さんと赤ちゃんがより良い状態で出産を迎えることができるようにお手伝いをします。

妊娠中のお母さんと赤ちゃんが健康であるかどうかの診察（健診）を行います。また、妊娠中に高度の管理治療が必要な患者さんの診療を行います。

お母さんに合併症がある場合

妊娠する前から高血圧、糖尿病、甲状腺機能異常、膠原病、心疾患、肝炎などがある場合には、内科・外科など他科と連携しながら管理を行います。

妊娠中に発生する異常

妊娠中に発症する高血圧症、糖尿病、肝炎などの診察・治療を行います。また、母子の間の血液型不適合妊娠、習慣性流産(流産を繰り返す場合)、早産などの妊娠中に特有の病気の診断や治療を行います。

多胎

双胎（双子）や品胎（三つ子）の妊娠では、いろいろな異常が起こりやすいことが知られていますので、厳重な管理を行います。

胎児や胎盤の異常が疑われる妊娠

超音波検査などで、正確な診断を行い治療方針を決定します。また、出生後にも最適の診療が行われるよう小児科や小児外科などの関連科と連携して総合的な診療を提供します。

診療科等のご紹介

検査部 診療に必須な臨床検査を担当します

臨床検査とは

医師の診察を受ける際に、血液や心電図などの検査を経験された方も多いと思います。血液・尿・便・喀痰など、患者さんから採取した物質の検査を検体検査と呼び、心電図・脳波・超音波・呼吸機能など、患者さんの体を直接調べる検査を生理機能検査と呼んでいます。これらの検査の多くは検査部で臨床検査技師によって実施されています。検査部では、診断・治療に必要な各種の検査を正確、迅速に行っています。

検査部の使命

日常診療に必要な検査の実施はもちろん、緊急時に必要とされる検査は夜間や休日においても24時間体制で対応しています。また、院内感染情報の発信などを通して院内感染対策にも貢献するとともに、糖尿病新患指導や感染制御チームなど、チーム医療の一員としても活動しています。さらに、大学病院の医療に求められる高度先進検査の研究・開発も大切な使命の一つです。

遺伝カウンセリング室

遺伝子検査室と連携し遺伝カウンセリング室を併設しています。遺伝性疾患の患者さんや遺伝に関する不安や悩みを抱える方に、遺伝専門医が遺伝についての正しい情報を提供し、適切な判断をしていただけるよう支援しています。ご相談内容のプライバシーの保護については万全の配慮を致しますのでご安心ください。お申し込み方法など詳細についてはホームページ

([http://133.82.146.2/GC/home %20 page.htm](http://133.82.146.2/GC/home%20page.htm)) をご参照ください。

各検査項目を分かりやすく解説した「検査報告書の見方」を中央採血室にて配布しています。ご希望の方はお申し出ください。

病理部 「病理診断は最終診断」

病理診断とは？

患者さんが病院に来院されると、適切な治療のために適切な診断が必要になります。「病理診断」は最終診断として大きな役割を果たします。患者さんの体より採取された病変の組織や細胞から顕微鏡用のガラス標本がつくられます。この標本を顕微鏡で観察して診断するのが病理診断です。

細胞診断

肺がんや膀胱（ぼうこう）がんでは、痰（たん）や尿の中にがん細胞が混じることがあります。痰や尿を顕微鏡で調べて、がん細胞がいるかどうかを判断するのが細胞診断（いわゆる「細胞診」）です。子宮がん検診では、子宮頸部から細胞をこすり取って調べます。のどや乳房などにしこりがあると、細い針を刺して吸引し、とれた細胞の中にがん細胞があるかどうかを調べる場合もあります。

生検組織診断

治療方針を決めるために、胃・大腸や肺の内視鏡検査を行った際に病変の一部をつまみ採ったり、皮膚などにできものができたときにその一部をメスなどで切りとったりして、病変の一部の組織を標本にします。この検査を「生検（せいけん）」といい、その診断を生検組織診断とよびます。

このほか、手術で摘出された臓器・組織は、肉眼で病変の部位、大きさ、性状、広がりを確認し、診断に必要な部分を切り取って標本を作ります。これを顕微鏡で観察し、どのような病変がどれくらい進行しているか、手術で取りきれたのかなどの情報を提供し、追加治療が必要かどうかなど、今後の治療方針決定に役立てます。

薬剤部から

薬と飲食物との飲み合わせ①

グレープフルーツにご注意!!

グレープフルーツは、カルシウム拮抗剤と呼ばれる血圧を下げるお薬の作用を強め、過度の血圧低下、頭痛、顔のほてり、などの症状をひき起こすことがあります。これは、グレープフルーツの成分がお薬を分解する酵素の働きを弱め、効きすぎが起こるためです。お薬をグレープフルーツジュースで飲んだり、グレープフルーツを食べるのは避けなければなりません（みかんやオレンジは安全です）。また、カルシウム拮抗剤以外にもグレープフルーツの影響を受けるお薬がありますので、服用されているお薬について不安な場合にはご遠慮なく窓口で薬剤師にお尋ねください。



納豆はワーファリンを無効にする

心筋梗塞などの血栓症の予防や治療にワーファリンという、血液を固まりにくくするお薬が使われることがあります。ワーファリンは、血を止めるのに必要なビタミンKを多量に含む納豆、クロレラ食品や青汁を摂ると効果が弱まってしまいます。中でも納豆は、納豆菌が体内で大量のビタミンKを作り出すためワーファリンが全く効かなくなることがあります。ワーファリンを飲まれている方はこれらを摂らないように気をつけましょう。ビタミンKはほうれん草やブロッコリーなどの緑黄色野菜にも含まれていますが、これらは毎日大量に食べなければ大丈夫です。



看護部から

看護の日 ―看護の心をみんなの心に―

5月12日は「看護の日」

「看護の日」をご存知ですか？

「看護の日」は1990年に制定されました。高齢社会を支えていく今日、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たちひとりひとりが分かち合うことが重要です。こうした心が誰にでも育まれるようにと5月12日のフローレンス・ナイチンゲールの誕生日を記念して「看護の日」が誕生しました。

「看護週間」とは・・・

5月12日を含む週の日曜日から土曜日までが「看護週間」です。今年は5月6日から12日までとなります。この期間、1階玄関ホールにおいて看護師の活動をポスターでご紹介します。

「看護週間」のイベント

来院された患者さんやご家族のために、血压・体脂肪・ウエスト周囲の測定や心肺蘇生法の体験を計画しています。どうぞお気軽にご参加ください。

日時：平成19年5月11日（金）

13：00～15：00

場所：1階玄関ホール

内容：

- 1．メタボリックシンドロームについて
- 2．健康相談
- 3．AED（自動体外式除細動器）の使い方を含めた一次救命処置の体験



看護職員を募集しています

職 種	看護師及び助産師
雇用形態	常勤職員、非常勤職員(パート)
詳細に関しては、下記にお問い合わせください。	
看 護 部	043-226-2650
総務課人事係	043-226-2222

千葉大学医学部附属病院への交通案内



ご来院にはバスが便利です。

1. JR千葉駅から
東口正面7番のバス乗り場から「大学病院」または「南矢作」
行きバスに乗車、「大学病院」で下車。
(約10分毎、所要時間約15分)
2. JR蘇我駅から
東口2番のバス乗り場から「大学病院」行きバスに乗車、
終点「大学病院」で下車。(約20分毎、所要時間約15分)
3. 京成電鉄 千葉中央駅からタクシー(所要時間約10分)

(当院では本ニュース扉の写真を募集しています。総合案内でお預りします。)